

ACT SMILE

*System of Manufacturing Industry
and Leading Enterprise*

新基幹システム

VER1.0 2014年09月01日 作成

1. プロジェクトの重要成功要因

システム導入を成功させるためには、以下のポイントが非常に重要となります。

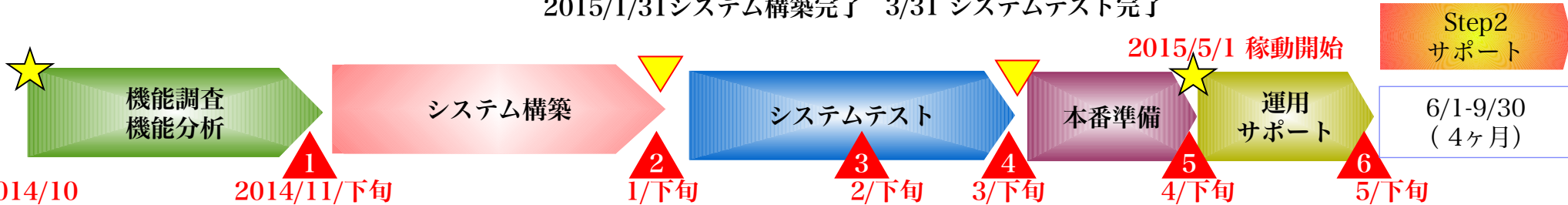
- 出来る限り標準の仕組みや共通のデザインを使うことで費用を抑えております。
- 御社業務側として、現行データ整備、実機機能確認、テスト実施、データ確認のご協力をよろしく申し上げます。



2. プロジェクトマイルストーン

マイルストーンは以下ようになります。各マイルストーンでは、フェーズの進捗状況を確認し、次フェーズ開始の判断及びプロジェクトの方向性に関わる協議を行います。

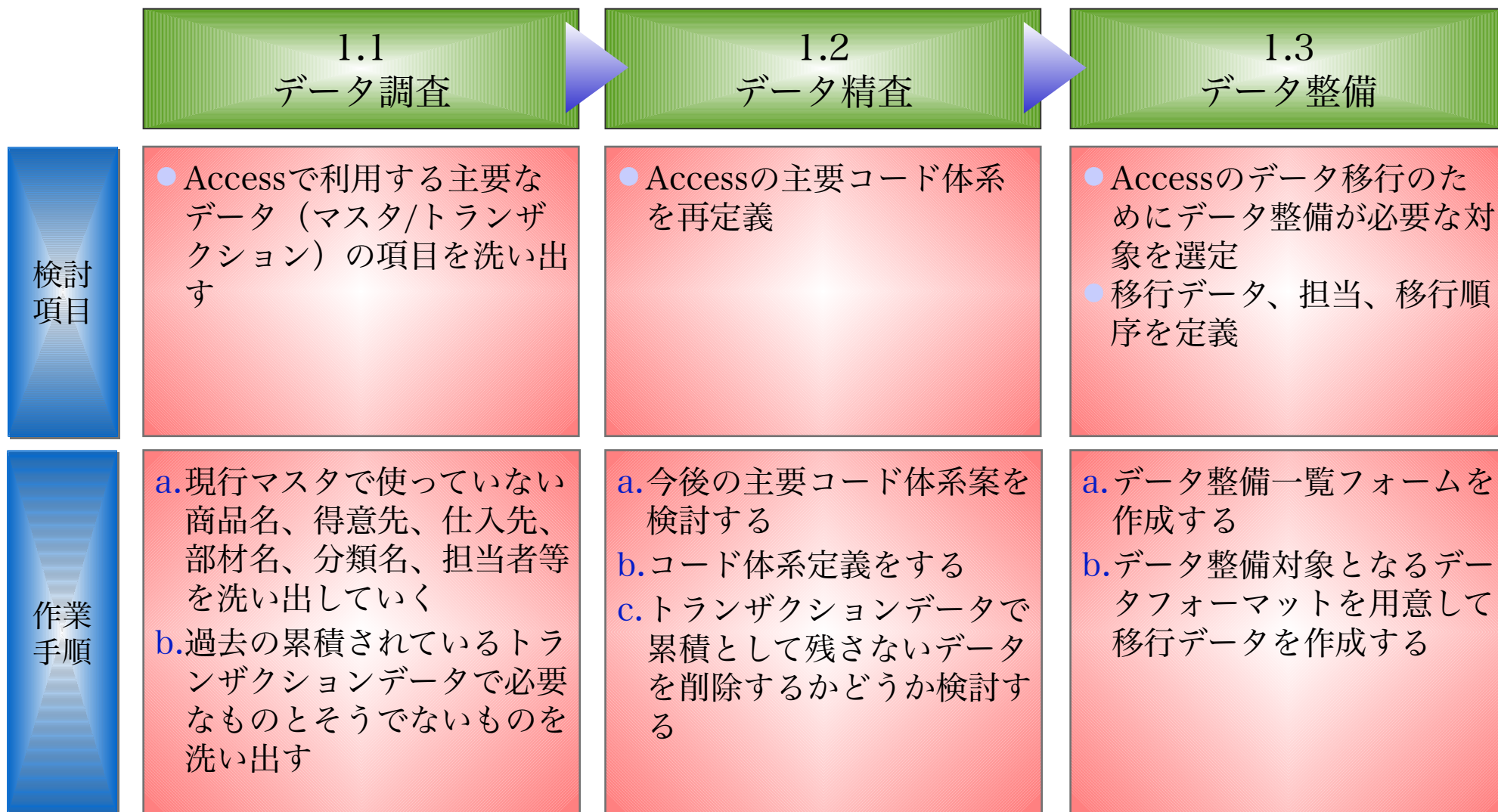
2015/1/31システム構築完了 3/31 システムテスト完了



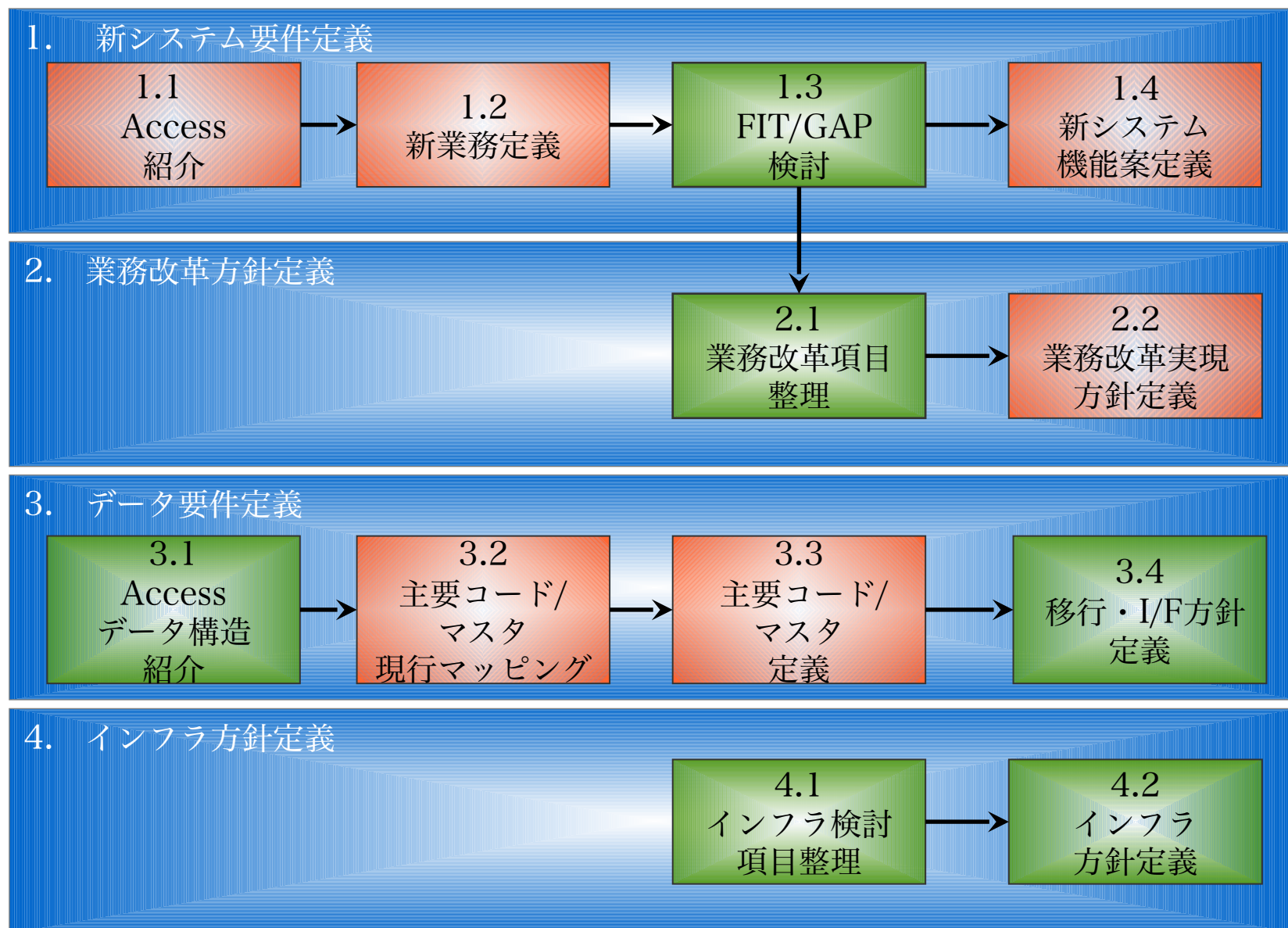
フェーズ	マイルストーン	確認・判断事項
機能調査・分析	1 現行機能調査完了	現行業務機能を調査完了し、システム構築の開始を合意する
システム構築	2 システム構築完了	システム構築を完了し、システムテストの開始を合意する
システムテスト	3 データ移行完了	データ移行の状況を確認し、テストの開始を合意する
	4 システムテスト完了	テストの完了を受けてシステムの再構築が完了したことを確認し、本番準備の開始を判断する
本番準備	5 本番準備完了	本番準備が完了したことを確認し、稼働の開始を判断する
運用サポート	6 プロジェクト完了	運用体制への引き継ぎが完了したことを確認し、プロジェクトの完了を合意する

3 主要マスタ・トランザクション定義

- Accessで利用する主要データ（マスタ・トランザクション）の項目をデータ整備が必要なものについては整備方針を定義します。=>今後のマスタ登録ガイド



プロジェクトの進め方



1. 新システム要件定義

1.1 Access紹介

- Accessを使って、新業務定義を行っていくために、Access概要を理解いただき、貴社メンバが自らAccessに触っていただく準備を行います。

1.1.1 Access概要説明

検討
項目

- Accessとは？（Accessとは？）
- 今回導入対象範囲のAccess機能概要のご紹介

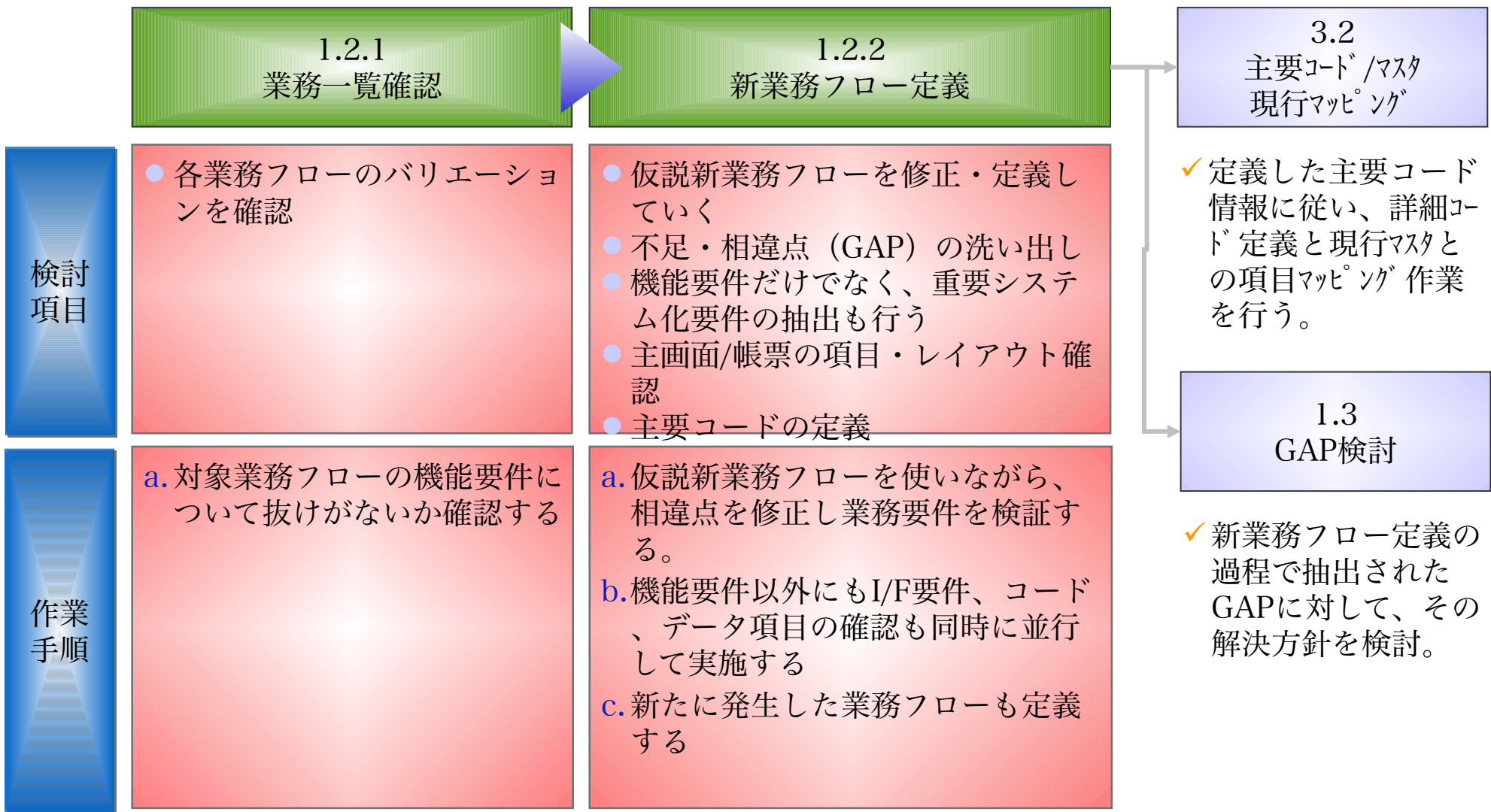
作業
手順

- a. 全員で共有いただきたいAccessという製品の特徴について概要説明会を実施する

1. 新システム要件定義

1.2 新業務定義

- Accessが想定している業務フロー全体の過不足を確認した後、業務フローを確認、修正していくことで新業務を定義すると共に、GAP/課題の洗い出しを行います。



1. 新システム要件定義

1.3 GAP検討

- Accessで想定している業務フローや機能と適合しないGAPや課題の洗い出しから、対応するレベルの振り分けと具体的な対応策の検討を行います。



検討項目

- 確認されたGAPを業務対応するか、システム対応するか振り分ける
- 検討のためのスケジュールを作成、確認する

- システム対応が必要な課題に対する対応策を討議し、結果を対応案として定義する
- 対応策に必要な工数の試算も行う

- ✓ システム変更対象（Access、現行システム）と対応内容を確認していく

作業手順

- a. 確認されたGAPに対して、対応策の振り分け案と検討スケジュール案を作成
- b. 振り分け案と検討スケジュールの優先順位を確認して一覧にする

- a. 個々の課題に対する対応案を関係者で討議していく
- b. 対応案に対する工数を試算する
- c. 提示された課題毎の対応案の確認と了承を行っていく

1. 新システム要件定義

1.4 新システム機能案定義

- システム変更（Accessおよび現行システム）の変更対象、実現手段、実現担当、実現時期を明確にした後、実行計画策定へと進みます。

1.4 新システム機能案定義

検討 項目

- GAP検討結果を受けて、システム変更※が必要な対象を確定
- システム変更対象の実現手段、実現担当（役割分担）、実現時期（優先度）を確定

※Access変更対象+現行システム変更対象

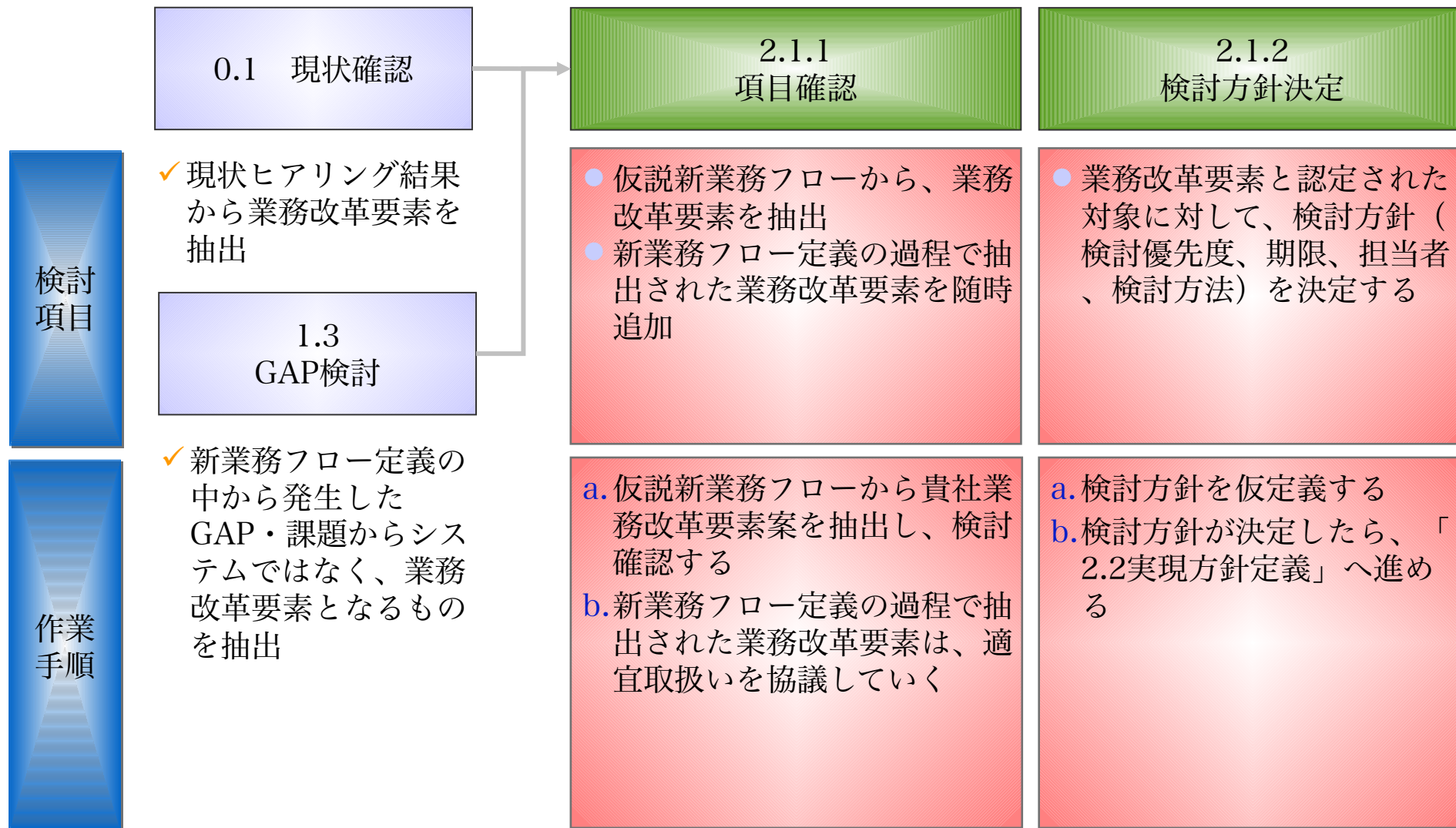
作業 手順

- a. 仮説新業務フローからシステム変更対象と判定されたものをシステム変更一覧に反映していく
- b. システム変更一覧の実現手段、実現担当、実現時期（優先度）案をまとめる
- c. 討議し、案を確定させる
- d. 最終案を確定させる
- e. PJオーナーに方針提案 →方針確定

2. 業務改革方針定義

2.1 業務改革項目 整理

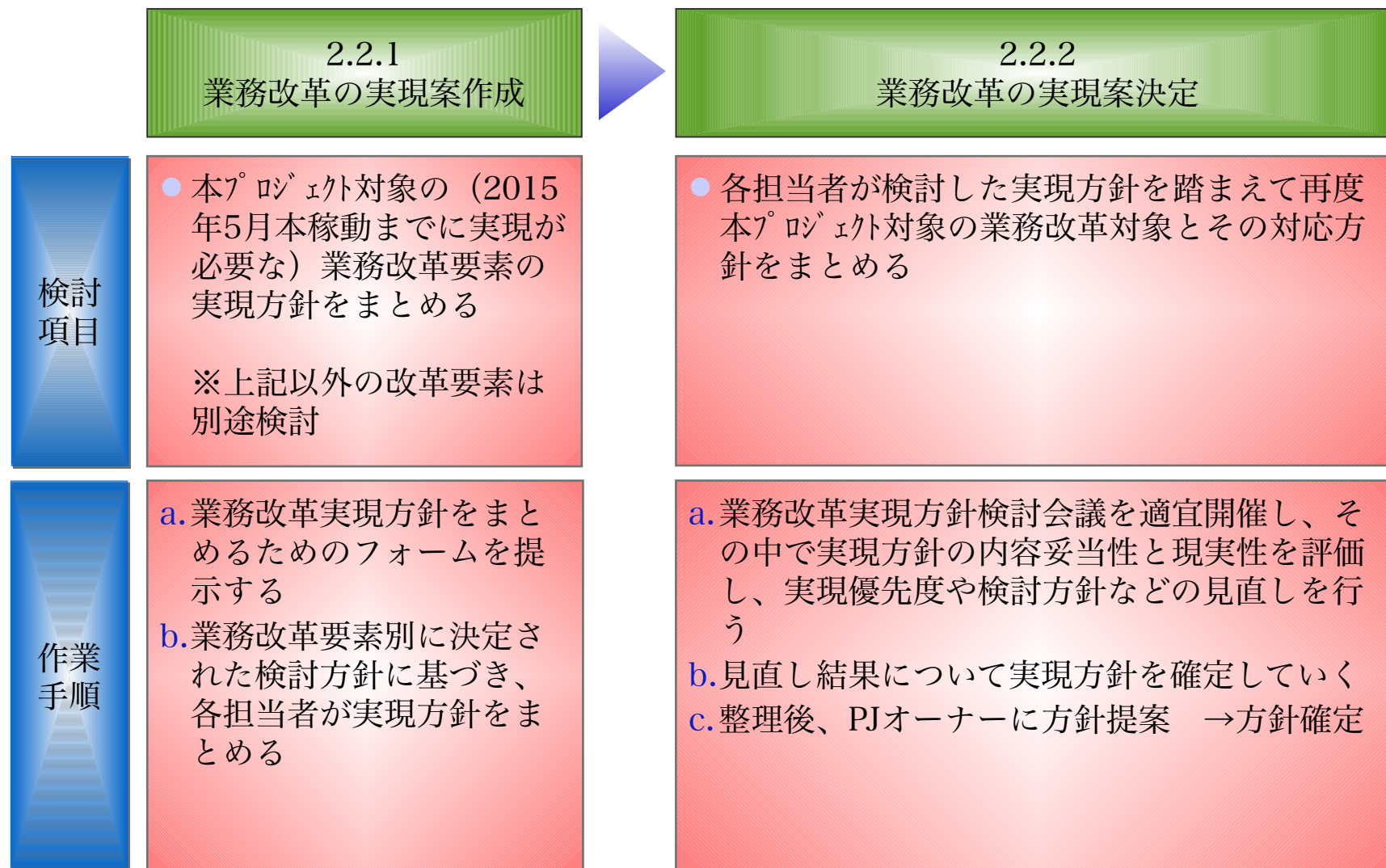
- システム化要件以外の業務改革項目（業務ルール変更、組織変更、業務内容変更など）を各検討タスクの過程で抽出した後、検討方針を決定します。



2. 業務改革方針定義

2.2. 業務改革実現方針定義

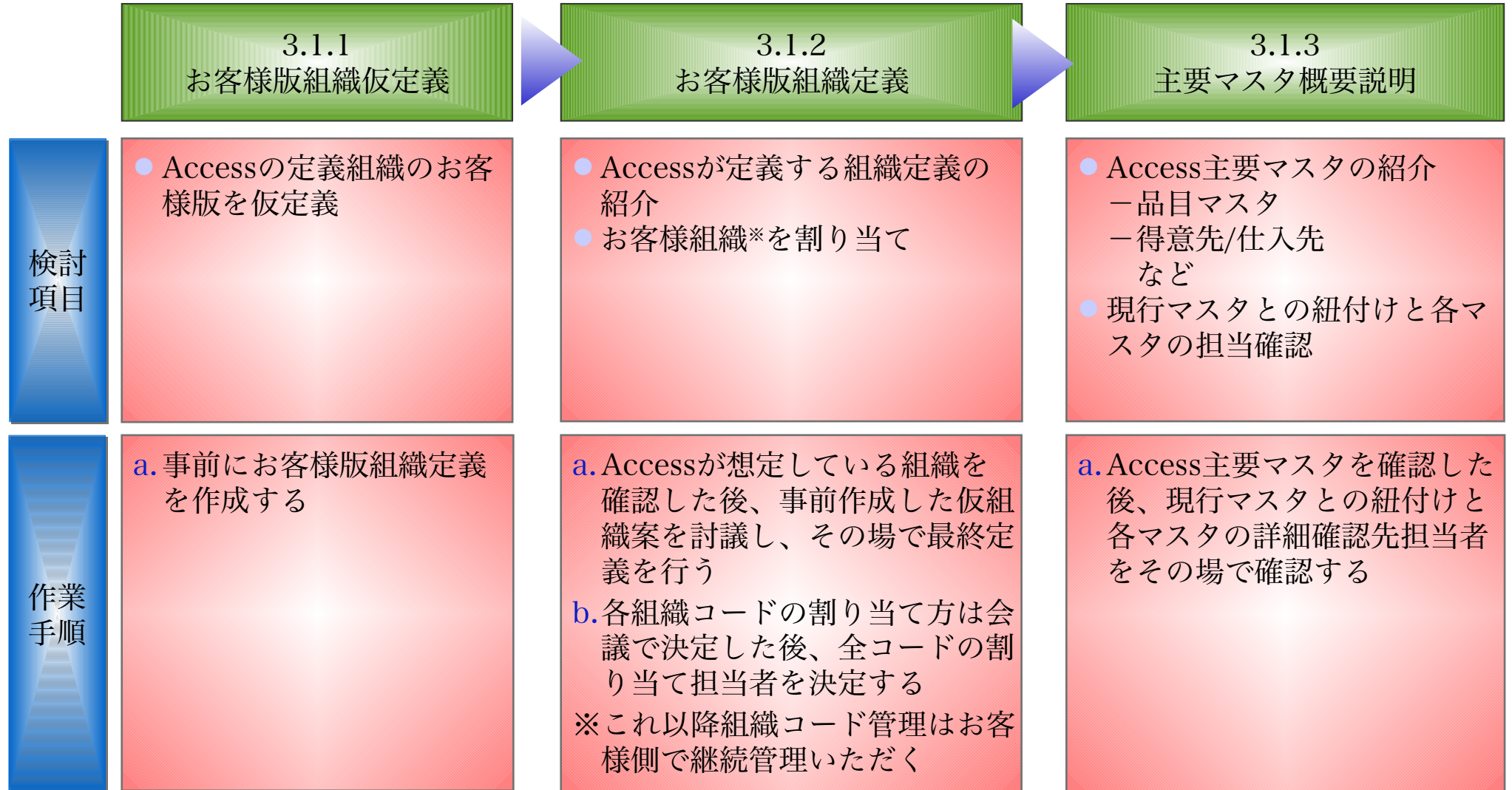
- 本フェーズでは、2015年5月本稼動までに実現が必要な業務改革要素について実現方針と実現計画を策定します。



3. データ要件定義

3.1 Accessデータ構造紹介

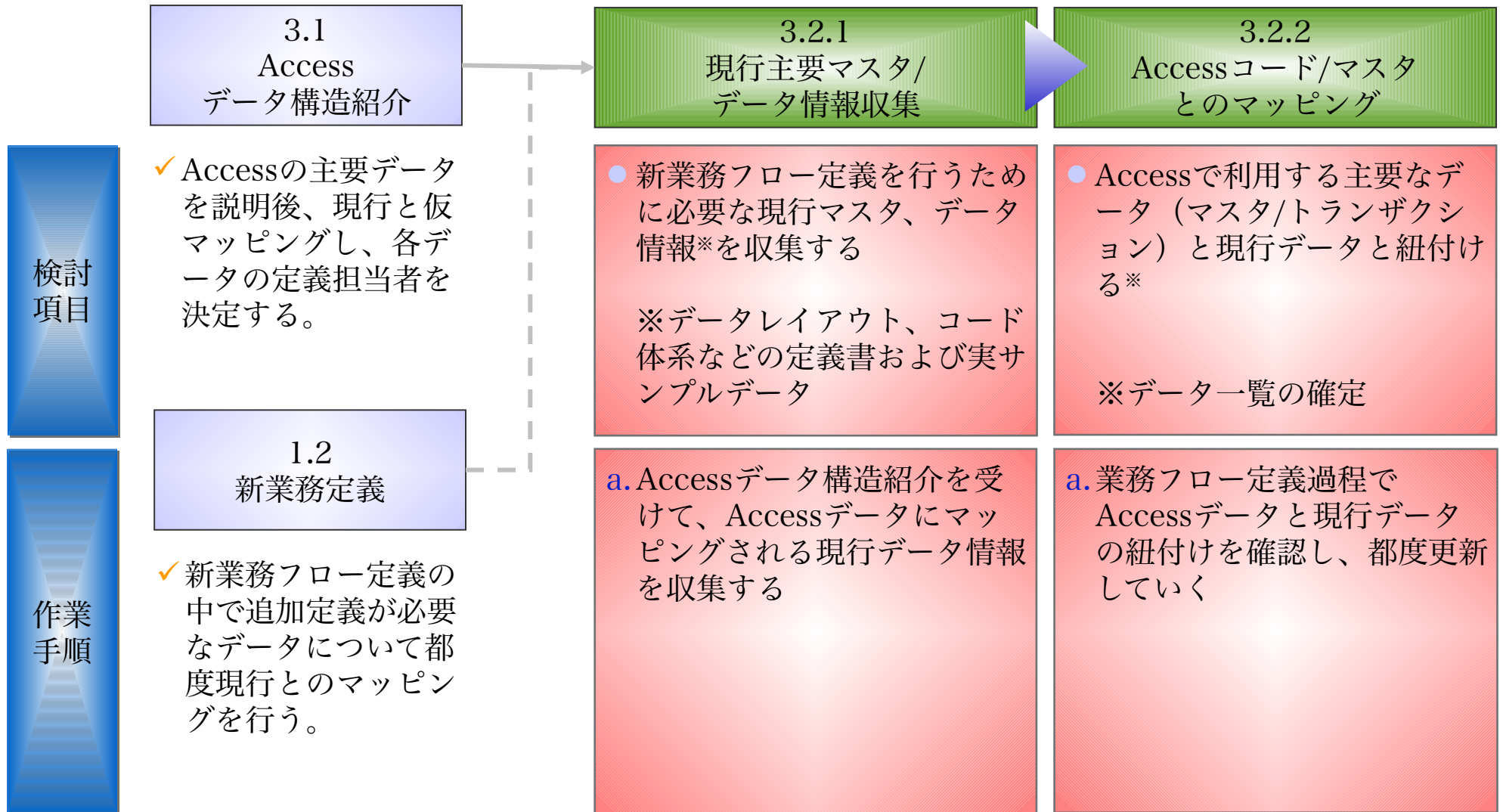
- 新業務フローを定義していく前に、Accessが想定している組織、マスタの構造を理解いただいた後、お客様版の組織定義を行い、Accessマスタの移行元を関連付けします。



3. データ要件定義

3.2 主要コード/マスタ 現行マッピング

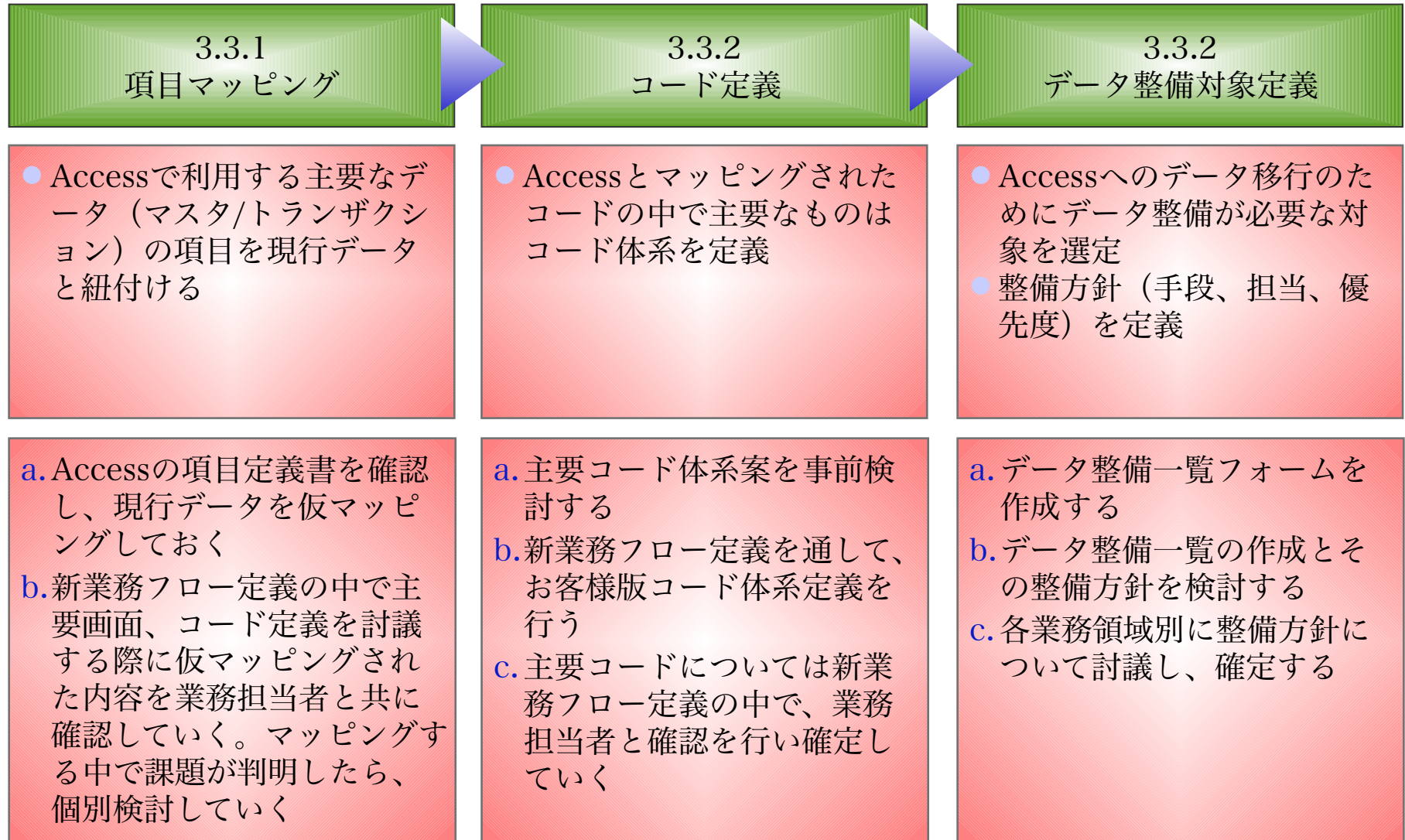
- Accessで使用するデータ項目と現行システムで使用しているデータ項目との突き合せを行い、対応させるデータ項目の確認を実施します。



3. データ要件定義

3.3 主要コード/マスタ 定義

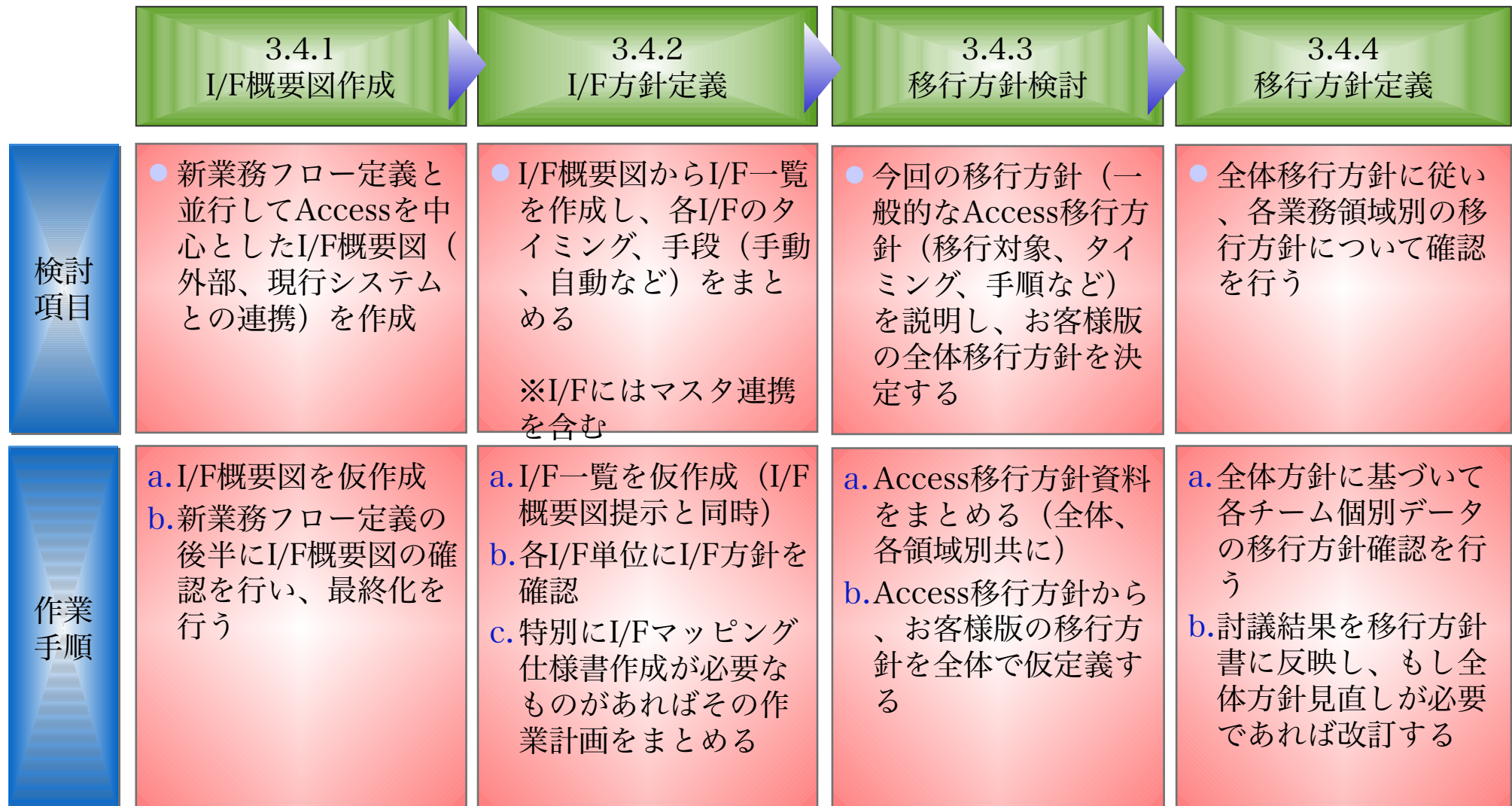
- Accessで利用する主要データ（マスタ/トランザクション）の項目を現行データとマッピングした後、新しいコード定義を行い、その結果データ整備が必要なものについては整備方針を定義します。



3. データ要件定義

3.4 移行・I/F方針定義

- I/F方針と移行方針を定義します。



4. インフラ方針定義

- （Access導入に関わる）インフラ検討項目を整理した後、現状と課題を整理し、Access導入後の姿を方針としてまとめます。方針が承認された後、実行計画を立案します。

